



P. 2	第 17 回総会
P. 3	CAPプロジェクト
P. 4	オレンジリボン
P. 5	エンパワメント・ファシリテーター研究会
P. 6~7	大阪市民サミット
P. 8~9	こつとりとKAGA シンママ&キッズ大作戦
P. 10	滋賀県エンパワメントワークショップ出前事業
P. 11~12	研修レポート
P. 13	ちょっとエッセイ
P. 14	活動報告
P. 15	講演会のおしらせ
裏表紙	事務局からの おしらせ

第 17 回総会ごあいさつ

北野 真由美

こんにちは。

本日、第17回特定非営利活動法人えんばわめんと堺ESの総会を迎えることができました。ともに、歩んできた皆さまをはじめ、えんばわめんと堺の活動に関してご理解とご協力、ご支援いただいていた多くの方々には、心よりお礼申し上げます。

今年は、国連「子どもの権利条約」が採択されて30年、日本が批准して25年になる年で～中略～2022年と言えば、えんばわめんと堺もNPO法人格を取得して20周年を迎える年でもあります。これからの3年間、「子どもの権利」を活動の柱にしてきた私たちの活動が、より一層、学校家庭地域のあらゆる場面で、認知され、子どもの最善の利益が守られるような社会をめざし、常にエンパワメントの関わりを大事に、邁進したいと考えています。

今後の希望と発展皆様への感謝をもってあいさつの言葉に代えさせていただきます。

総会イベント

『エンパワメントの関わりで大切にしたいこと』というテーマでの講演、初めてお会いする市場恵子さんのお話をとても楽しみにして総会を迎えました。

ギターの音色と共に歌でスタート、突然涙が溢れだす…ええ～何やろ？理由もないのになんで泣けてくるんやろ？予想していなかった自分の変化に戸惑いながら、きっと理由なんかいらぬのだ、心が洗われるってこういう事なんだと納得しました。

ジョハリの窓を使って、ファシリテートしていくには「明るい窓」の部分が大きくなる方が、自分自身を知っている事が資質UPにつながり、自尊感情がふくらみ、自分が自分であることを確立していくことがエンパワメントにつながるとお話をされました。

また、「盲目の窓」を他者からフィードバックされることを謙虚に受止めることで、「明るい窓」が大きくなるとお話をされたことが印象的です。

「幸せだな」と感じられる状態、自分にやさしくする方法など、自分のためにすることは、それが人のためにつながるという言葉に、「わたしはわたし」と改めて思える瞬間でした。

お話の間に何曲か歌を挟んでくださって一緒に歌える心地良さ、もっとお話も聴きたい、歌も唄いたい。

総会イベントに相應しい、温かい気持ちになれた時間でした。

まだまだお話を聴きたかった、というメンバーみんなの声で、2月にまたお越し頂ける事になりました♪楽しみにしています♪（しおざき）

（堺の「茶倉」で懇親会、ビーガン料理、身体も気持ちもやさしくなった）



CAP プロジェクト

CAP に出会って

暴力に、あっていい子なんてひとりもない。子どもたちは人として尊重される存在である。人として生きていくうえで、あたりまえに、たくさんの権利を持っている。その中でも子どもたちには、特別にたいせつな権利がある。それは「安心」「自信」「自由」の権利。権利が取られると、いやな気持ち、やり返したい、むかつく、腹がたつ、いろんな気持ちになる。そういう気持ちになることは、少しも悪くない。それは暴力がおきていること、たいせつな権利が取られていないか教えてくれていることである。その時に自分を守るために必ずできることがある。子どもたちはひとりひとりたいせつなのだという思いを少しでも子どもたちに伝えたいと日々ワークに臨んでいる。子どもたちに励まされたり、私自身が力をもらうこともたくさんある。CAP ワークショップで子どもたちからもらった声を少し紹介したいと思う。

「嫌がらせされたままだったけど、いやだと言ってみようと思う。」
「自分には権利があっただけだとわかった。」
「いやなことが、あつたら誰かに話しをしてもいいことがわかった。」
「たくさんの過去の経験を話してくれた後、今は幸せと言ってくれたこと。」
「権利を取られている人がいたら力になりたい。」
「遊びのつもりでも人を傷つけたら暴力になることがわかった。」
「殴られたら殴り返したらいいと思っていたけど、権利の取り合いになることがわかった。」

20年近く CAP ワークショップを子ども達に届けているが、これからもいつまでも子どもの声を聴けるおとなのひとりでありたいと思う。

なえちゃん



西成子どもの里の企画 “夏休み子どもワークショップ三昧”

夏休み、ワーク三昧の1日ということで、午前中は低学年の子どもたちに就学前 CAP、午後は高学年向けの CAP プログラムと、SAY の会のプログラム（性の境界線）を実施しました。

気持ちを表してくれたり、ロールプレイに出たり、それぞれの思いで参加してくれました。

お昼は子どもたちが買い物して作ってくれた昼食を一緒に頂き、後片付けも子どもたちに習いました。

前に会った時は、大きな子たちにまだお世話されてた子が、大きくなっていてびっくり！

夕方には、仕事をしている年齢の人たちも集まって来て、さらに賑やかに…。

今から数人で遊びに行くとかで、近況を話してくれた。若者が集まる場所になっていることの素晴らしさを感じました。ここ何年か続けた取り組みが、このワークの醍醐味かも。

暑い中のワーク三昧は身体はクタクタになったけど、パワーをもらって帰りました。（しおざき）



オレンジいぼん

毎月のこころクラブに参加してくれている大学生の「たっちゃん」が、虐待や暴力に抵抗することが困難な子どもたち、さらにその上障がいがあるという子どもたちを救いたいという思いを書いてくれました。

『オレンジいぼんに参加して』

松本龍哉

大学三年生の六月、僕は初めてオレンジいぼんに参加させてもらいました。そのきっかけは、虐待や暴力に抵抗することが困難な障がいを持った子どもたちを救いたいという思いに感銘を受けたからです。立場がとても弱い人たちのために自分も手を差し伸べたいと思い、毎月活動しています。

最初の頃は、接し方が分からず、嫌という意思表示の方法などをただ教えている状況でした。他のスタッフのように楽しんでもらいながら学んでもらうにはどうしたら良いのかと思い、周りの方に相談に乗ってもらいました。その時に「少しずつ自分から話してあげること」や「相手のペースを待つこと」が大切というアドバイスをもらいました。次の活動の時から、相手の子の好きなことについて質問したり、「今日の朝ごはんは何を食べてきたの?」と話しかけたりすることで、次第に会話のキャッチボールができるようになりました。そして、教えたことを一緒にやってくれることが増えていきました。その時はとても嬉しかったことを覚えています。

また、子どもたちからニックネームで呼んでもらうことや話しかけてもらえることも増えたので、毎月参加していて良かったと思いました。

僕は「オレンジいぼん」に参加するまで、この活動を知りませんでした。起源や活動内容を調べた時、以前の自分のように、この運動を知らない人は少なくないと思うので、多くの人に広まってほしいと思いました。

障がいを持った子どもへの虐待や暴力はとても痛ましいことだと、誰もが感じると思います。その思いを活かして、オレンジいぼんに参加する方がさらに増えることを願っています。



～参考～

「障がいのある子どもたちはそうではない子どもたちの8倍暴力の危険にさらされている」と言われています。

(2002年度アメリカ Health and Human service 調査)

なぜ障がいのある子どもが暴力を受けやすいのか?

- ・知的なあるいは身体的障がいによって力を持たされていないため、自分を無力だと思い込んでいる。
- ・子どもたちは常に権威者を尊敬するように教えられ、その権威者が暴力の加害者であることも多い。
- ・障がいがあることへの理解と協力を得るために、良い障がい者であることを期待されている。そのことにより、たとえば自分の考えを主張しないで周りの人に合わせてしまうことがある。
- ・他人に認められる機会が少ないため、ほめられたり注目されたり関心をもってもらうために行動してしまうことが多い。
- ・生きていくために他人に依存せざるをえない。
- ・子どもも家族も孤立しやすい。
- ・プライバシーが保ちにくい。
- ・性についての知識から遠ざけられている。

ICAP (International Center for Assault Prevention) 前事務局長パット・スタニスラスキ講演録、

「障がいのある子どものCAPプログラム」パンフレット参照



エンパワメント・ファシリテーター研究会 Vol.5 めざせ！エンパワメンター

Vol.5 クールのはじまりです。

今年度からエンパワメンター部を発足して、さらに深められる研究会を開催していくためにはどうしたらいいか、エンパワメンターってどういうこと？など、話し合いながら進化中です！

ただいま、エンパワメンターの定義、原則 10ヶ条、検討中！！



子どももおとなもさまざまな可能性、力を持っています。

本来持っている力をふくらます、エンパワメントの関わりで、ファシリテートをしていく”エンパワメンター”をめざしませんか？ともに学びましょう。

参加費一回につき 一般：3000円（学生：2000円）賛助会員：2000円 正会員：1000円
今後の予定

10月31日(木)

13:30~16:00

堺市総合福祉会館

「エンパワメンターとして
大切にしたいこと」

11月30日(土)

9:30~12:00

堺市総合福祉会館

「エンパワメンターと多様性」

エンパワメンターだよりの発行も

予定しています。お楽しみに♪

2020年

2月29日(土)

9:30~12:00 場所未定

「エンパワメンターとしての
対立の扱い」

2020年

1月31日(金)

13:30~16:00

堺市産業振興センター

「エンパワメンターによる
感情と価値観」

2020年

3月31日(火)

13:30~16:00 場所未定

「エンパワメンターとして子
どもの力をひきだす」



G20 大阪サミットに先立ち 大阪市民サミット開催 ~2019年6月25.26日~

このサミットは各国首脳や国際機関の代表達の会議です。そこでG20に先立ち大阪・関西のNGO/NPO有志が話し合い、実行委員会を立ち上げ、開催地の市民社会として「G20大阪市民サミット」を開催しました。

G20メンバー国はG7（フランス・アメリカ・イギリス・日本・イタリア・カナダ・欧州連合 [EU]）の他、アルゼンチン・オーストラリア・ブラジル・中国・インド・インドネシア・メキシコ・韓国・ロシア・サウジアラビア・南アフリカ・トルコ・他にも開催国が招待した国や国際機関も多数。この日は大阪府・市の学校が休みになり、高速道路が封鎖され、生活に影響したこともあり、多くの人が関心を寄せられたのではないのでしょうか？議題は、世界経済、貿易・投資、開発、気候・エネルギー、雇用、テロ対策、移民・難民問題等でした。

6月25日26日の市民サミットのプログラムでは、各国首脳が課題にしているもの以外に、ホームレスの問題・性的マイノリティ・ジェンダー・万博・子どもの権利などがありました。当団体は子どもの権利条約関西netの一員として、子どもの権利の分科会を開催しました。

【子どもとSDGs・子どもの権利・子どもの人権擁護】がテーマで、なんと56名の参加者でした。



大阪の子ども達の現状をリレートークで発表した後、参加者がグループに分かれてディスカッション。最後に自分のアクションプランを発表するという行動につなげる分科会でした。

まず、プレイワーカーからは、子どもからあそびが奪われていること、自由に遊ぶ場所や、時間が無くなり、子ども同士の関係性も希薄になり、様々な競争にさらされ疲弊している。子どもは遊びを通して今を生きる存在。保障されるべき「休む権利・遊ぶ権利」が奪われている現状。

外国籍の親をもつ子どもの課題や、子どもだけけど、病気やしんどさを抱えた親のケアをしているヤングケアラーの課題。子どもの最善の利益が尊重されているのか？

里親に育てられている子どもたちの権利は守られているか、理解がなかなか進まない現状。

わたしは障がいのある子どもと関わっているので、子どもの権利条約を学び、自分自身の置かれている状況は、けんり侵害にあっていることに気付き、行動に移した中学生の話をしました。支援学校に通っている彼、地域の中学生と比べて教科の勉強が少ないと感じ、もっと勉強したいと親や先生に伝えましたが、聞いてもらえないと、悩みを打ち明けてくれました。子どもの権利条約を学ぶ機会を作り、彼をエンパワメント出来たらいいな、と考えました。彼は勉強の機会が奪われていると気付き、先生に申し出ました。しかし、いい結果にならなかった。

その先生は、本人の訴えに、あなたはどれだけ能力がないか、勉強が出来ないか、という事実を突きつけ宿題や教科の時間を作ることを拒んだ。そして、本人の思う勉強ではなく、小学〇年生用と書かれた、図形のマッチングプリントを渡した。「僕はバカにされた、もう嫌だ!」「権利なんか勉強してもムダ、もう子どもの権利の話はやめてほしい」と私に言ってきた。私は彼の訴えになんと返せば良かったのか?みなさんにも考えてほしい。と伝えました。

それぞれの課題は、いつか社会が変わるかも知れない10年、20年後まで待てません。子ども期は短いです。あっという間におとなになります。早急に対応しないといけません。まさにアクションプランです。今年に国連子どもの権利条約が採択されて30年、日本が批准して25年の節目です。子どもの権利が社会のスタンダードに位置付けてもらえるように、キャンペーンも発足されました。立ち後れている日本社会において、『子どもの権利』の概念が浸透し、国、自治体、家庭などのあらゆるレベルにおいて、子どもの最善の利益が確保されるような社会を、みなさんと共に作りましょう。(はしもと)

～市民サミット提言書『子どもたちを誰ひとり取り残さない』より～

子どもの権利条約が国連で採択されて30年

子どもの人間としての尊厳を守る、と世界が子どもたちと約束したことを今一度、
思い出しましょう。

子どもたちは守られるだけの存在ではなく、権利の主体です。

「未来」や「将来」おとなになる人ではなく、

「現在」の人であり、世界の人であり、市民です。

子ども抜きに「現在」を考えることはできないし、「未来」を考えることはできません。
SDGsで取り上げられている課題はすべて、おとなだけでなく、子どもたちにとっての
課題です。これらの課題にとって、子どもたちは問題解決の重要な資源であり、力です。

私たちは、ここに決意も新たに宣言します。

子ども達を誰ひとり取り残さない。

それは子どもだけでなく、誰も取り残さないということにつながります。

おかしいことをおかしいやん!と声をあげ

いやだと感じることには、NO!と行動を起こし、

子どもたち、そして隣り合う人と連帯し、知恵を出しあうために、テーブルを囲み、
語り合うことから始めませんか。 子どもたちを誰ひとり取り残さないために。



シンママ&キッズ大作戦

「加賀温泉で自然とあそぼう！ママは旅館で職業体験」というキャッチフレーズで夏休みに1泊2日で開催された事業にえんばわめんと堺/ESは子ども担当スタッフということで4名参加してきました。

【シングルマザーを支援する運営スタッフの大森順子さんより】

私は、主にシングルマザーの支援者として、一昨年から「加賀市ワーク・チャレンジ事業」に参加してきました。この事業は、女性の就労支援を目的に、就労を求める女性に支援者が寄り添って加賀市の温泉旅館に泊まり込みで就労体験をするもので、最終的には加賀市に移住するという選択肢もあります。

その報告会で、えんばわめんと堺のメンバーから「子どもは保育がついているだけ？子どもが主役の企画はないの？」と質問を受けたことが、今回の企画を行うきっかけでした。確かに、お母さんたちの就労支援ばかりに気を取られ、子どもをメインに考えることがなかったことを反省しました。そこで考えたのが、母子家庭団体が毎年夏に行っていた合宿のような、子どもたちがめいっぱいあそべる企画です。本来この事業の主旨である、女性の就労支援の旅館お仕事体験に関しては、発想を転換してキッズニアのおとな版のように捉え、あくまで子どものあそびをメインに、おとなはサブと位置づけて企画しました。

えんばわめんと堺のみなさんに、プレイリーダーとして子どもたちと意思をすりあわせてもらい、その間お母さんたちは旅館のお仕事体験や街歩きをする、そして、どうせなら現地のシンママさんと交流会も行う計画を立てました。

結果は、大成功だったと思います。シングルマザーは、いつもいつも子どもといっしょで離れられるのは仕事の時だけです。そこで、まずは子どもたちと別行動ができたことだけでもシンママさんたちにとっては新鮮な楽しい時間だったようです。行きのバスで、すでにえんばわめんと堺のみなさんとも話をしているので、きっと安心して子どもを預け、自分たちの時間を楽しむことができたのでしょう。

1日目の午後、子どもたちが「森のあそび場くるけ」に行っている時間、シンママたちは街歩きと「こっとりとKAGA」※や老舗旅館の見学をしました。子どもと離れてのびのびと楽しそうにおしゃべりする姿が見られました。あいにく旅館では一番忙しいお盆時期でしたので、体験はかなわず見学のみでしたが、熱心に質問するお母さんもおられ、みなさん興味津々で見学していました。

2日目は、子どもといっしょに「加賀にここにパーク」であそび、そのあとは「金沢シングルマザーの会」のメンバー2人と交流会です。自己紹介では、それぞれが「そこまで言う!？」というほどの自己開示をされて、こちらがびっくりしました。だんだんコイバナになり、ダメンズの話や「おとつい振られました！」という告白も。金沢のシンママさんともライン交換する姿が見られ、すっかり打ち解けて楽しい交流会となりました。

今回参加したからといって、すぐに加賀市に移住するシンママはいないと思います。それでも、選択肢の一つとして加賀市に住んで旅館で働くというのもありかも、と思ってもらえたらそれで十分。子どもたちにとっては楽しい夏の思い出となったでしょうか。大阪に着いてバイバイするとき、離れたくなくて大泣きした子もいたし、次に会う約束を交わした子もいたようです。私にとっても、忘れられない夏になりました。

(シングルマザーのつながるネット まえむきIPPO 大森順子)

※「加賀市ワーク・チャレンジ事業」の拠点となる場 <https://kottorito-kaga.com/>

【子ども担当スタッフとして参加したえんぱわめんと堺/ESのメンバーより】

この加賀の取り組みは、行政や職場が色々な支援してくれるので画期的と思いましたが、移住を考える場合、親は良い環境(支援が整っている)としても、子どもたちは、どうなんだろう？親の幸せを考えるのかな？自分の今の友達は？慣れないことへの不安はないのかな？、親だけが体験のために加賀に来るのは難しいから、どのようにしたら、体験に来やすいのかな？と思い、意見を伝えました。

そして、今回の企画の実行に繋がりました。

子どものほとんどは、遊ぶところがあるから、それを楽しみに来てる感じでした。

3歳～中学2年までのそれぞれの個性豊かな子どもたちで、物怖じしないで子ども同士、色々話してすぐにうち解けていました。森の遊び場「くるけ」と「かがにこにこパーク」は、子どもの発想で様々な遊びができる楽しい所で、時には物の取り合いや順番抜き、ケンカなども起きましたが、話をしてすぐに遊びを続けていました。子どもの繋がる力、学ぶ力、楽しめる力を感しました。

子どもの中には、実は嫌々連れてこられた、とか

説明無しに突然出かけると言われてきたからどこに何しに行くか知らないと話す子もいました。

この取り組みについて、子どもにどのくらい説明しているかわからなかったですが、子ども同士で「お父さんおる？」とか「(お父さん)たまに会うかな」とか、多くは話さないけど、友達の家はどんな感じか話していました。2日目に、お母さんたちが話をしている時間に子どもたちを就学前の子どもと小学生以上の子どもに分けて、プログラムをおこないました。

就学前の子どもたちには、手遊びや絵本、エプロンシアターを通して、みんな大事な子どもだよ、多様な子どもがいることなどをお話しました。

小学生以上の子どもとは、ワークショップとして「アサーション」をテーマに、気持ちの言葉を表して、自分の気持ちの大切さを学んだり、いやな事をされた時は「いや」って言っていいんだよと「いや」を言う練習をしたり、子どもたちの発言から性のことについても学びました。最後は、就学前の子ども、小学生以上の子ども全員合同でクイズ大会、大いに盛り上がりました！

今回の企画で、親に職場体験がどんな場所かとか知ってもらうきっかけになったし、子どもたちも加賀という場所を知れたし、嫌々来たと話していた子も、クイズコーナーで参加度抜群だったり子ども同士ですっと話して楽しそうにしていたので、初めての企画でしたが、無事に終わりました。

(たえぼん)



滋賀県エンパワメントワークショップ出前事業

今年度、滋賀県人権センターより委託事業として「エンパワメントワークショップ出前事業」を実施した。教育関係(子ども・教員・PTA)・行政・企業・福祉関係など、さまざまな分野で人権をベースにしたエンパワメントワークショップを展開しました。十数か所に及ぶ滋賀県全域は雄大なイメージ、そして琵琶湖はまだまだ広い！各分野の開催に際し、毎回担当の方とのふりかえりをし、その分野での強み改善点など話し合った。さらに滋賀県全域を担当する人権センターの担当者との話し合いでは、今後に向けての継続で、どの分野でもエンパワメントの概念を深め、多くの人に届けられることを願った。



虐待予防教育のこれから 4 教師×NPO 意見交流会

虐待予防教育のこれから 4 教師×NPO 意見交流会に参加してきました。

認定 NPO 法人 児童虐待防止協会 APCA さんが主になり、開催されました。

内容は、小学校の先生が実際に児童に対して「児童虐待防止」をテーマにした授業実践した報告会です。参加者は、主に大阪市内公立小中学校の現役の先生、養護教諭、NPO スタッフ、企業の方々でした。

実践報告として、被虐待児がいるクラスで虐待防止をテーマとした内容を、その子が傷つかないように配慮ができるかということが課題でした。

そこで、子どもには「権利」があることを伝えるものとして、「子どもの権利条約」を伝えることにしました。ユニセフのカードを使い、まずは「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」4つの権利がある事を伝えたそうです。

子どもの人権を大切にしている私たちにとって、先生が4つの権利について子どもたちに伝えてくれることが、とてもうれしく感じました。平成29年4月に児童福祉法が改正され、「子どもが権利の主体であること、意見を尊重されること、最善の利益を優先されること」を主に目的とされ、「子どもの権利条約」が基礎とされている。ことも導入の理由の一つでもあったようでした。

虐待予防教育授業することで、被虐待児がこれ以上傷つかないように、フォローに気を使ったそうです。今まで以上に家庭との連携、他の先生との連携に気がつけたそうです。今まで、自分に権利があることを知らなかった児童にとって、誰に相談すればいいかなど、具体的な専門機関など、先生自体も知らないこともあり、相談先を先生にしているのか？など、悩んだそうです。

授業後の成果としては、児童自身が大切にされるべき存在であると認識を深めた。守ってもらえる機関が存在する事を知ることができたことだったそうです。大阪市内の公立小学校で、子どもの権利について考え、プログラムを作りを実践している先生方の存在を知る事ができ、実践した先生とグループディスカッションをすることができ有意義な時間を持つことができました。

これからも、先生とNPOが連携して子どもの権利を守ることができたらいいなあと思いました。

(あきか)



長崎県 南高愛隣会 結婚推進事業 「ぶ〜け」 の取り組みについて

今年度の性教協、障害児者サークル夏の集いに参加しました！

長崎の社会福祉法人南高愛隣会さんから、2名の方が大阪に出向いてくれました。

歴史のある42年目の法人で、長崎の5つの地区で合わせて68事業所を運営されています。

2007年に入所授産施設・入所更生施設を閉園、すべて地域移行され、グループホーム、マンション型一人暮らし、シェアハウス、夜勤型ホームなど、多彩な暮らしから自分に合った住まいを見つけることが出来るそうです。住まいが安定すれば、働くことへのモチベーションも高まる、そしてプライベートの時間の豊かさも追及されているというお話でした。

その中で、各種福祉事業の他に、南高愛隣会さんの自主事業「ふつうの場所で愛する人との暮らしを実現する」があります。愛する人・家族と暮らす、恋人と暮らす、子どもと暮らす、親子で暮らす。その一環で、結婚推進室も設けられたとか。沢山の会員さんのスライドと共に出会いの場としての毎月の恋活パーティーの様子を見せて頂きました。

*ラブボウリング*ラブシネマ*身だしなみスキルアップ講座*ラブミステリーツアー*おつき合い・デートのマナーを学ぶ講座*クリスマスパーティー*バレンタイン&ホワイトデイなど ♡♡♡

20代~60代の方まで参加されていて、みなさんおしゃれをしてパーティーに来られています。笑顔いっぱい、会話がいっぱい、全身で楽しんでいる様子が見えました。

参加者の中には、一般の結婚相談所や、婚活パーティーに参加したことのある人もいたそうですが、相談員に理解してもらえなかったり、サポートなしに1人で参加するのは難しかったりしたそうで、南高愛隣会の結婚推進室「ぶ〜け」の取り組みは画期的だったようです。

この活動をきっかけに、外に出る機会が増えたり、身だしなみや生活が改善されたり、好きな人とコミュニケーションをとるために、色々調べたり、デートプランを練ったり、お金の使い方を学んだり、とさまざまな意欲向上につながっている、ということでした。

しかしながら、全ての人にパートナーが見つかるわけではなく、ふられたり、付き合っても別れる場合がうまくいく数と同じくらいあるそうで、その気持ちのおさめ方・伝え方も学ばれています。多くの方はすぐに立ち直り、次の恋を見つけるそうです（笑）



障害者の権利条約の中に23条「家族を持つ・子をもつ・性の情報を得る権利」があります。しかし、障がいのある人の結婚・出産・子育てにはまだまだ社会の偏見があることも事実です。ひとりひとりの幸せのカタチを本人の意向をくみながら、実現されていることに未来を感じました。この集いの帰り道、駅まで歩きながら、「♡ふ〜ふ〜ん♪」と鼻歌が自然に出るくらい、わたしも幸せいっぱいの気持ちになりました♡ （はしもと）



ちょっとエッセイ

温泉旅館でのこと

日本海を眺められる旅館、夕食は海を見ながらのガーデンバイキングを予約しました。ところがその夜は、年に1度の安全点検が重なり部屋食に変更の連絡が…

ついてない~と思ったらお詫びにワンランクアップの部屋になるとのことで、「よっしゃー！」と納得。

とても居心地良く落ち着いた雰囲気の部屋に案内してもらい、スタッフが館内や浴衣と草履について丁寧に説明してくれました。

スタッフ：『男性は紺色の帯、女性は赤色の帯でございます。草履は黒の鼻緒が男性、赤の鼻緒を女性がお使いください。』

私：「は~い」

と返事をしながら内心「ジェンダーや」と思いつつ、赤の帯を巻き赤い鼻緒の草履はいて女湯に行くと、草履の棚にたくさんの黒の鼻緒の草履と、少数の赤の鼻緒の草履が並んでいました。するとあとから来た女性二人がこんな会話をしていました。

女性客A：「え~?もしかして混浴?」

B：「いややあ~大丈夫なん?不安~ちょっと覗いてみよう」

温泉はとてもいいお湯で、そこには男性と思われる方はいなかったです。

出てきたところでまた別のスタッフにあったので、こちらから話しかけました。

私：「…ということで、びっくりされてましたよ」

スタッフ：「申し訳ございません、外国からの方に黒の鼻緒がかっこいいと言われる方多いんです。それに足のサイズが男物のサイズであったり、女性でも紺の帯がかっこいいとか、日本の子も若い男の子が赤の帯を巻きたいとかいろいろありまして…ご不安な思いさせてしまいました。おおめに見てやってくださいませ。すみませんでした。」

私：「全然不快に思わないです。それでいいと思います。だれも間違っていないし、履きたい色を履き着たい浴衣を着ればいいと思います。今の時代そろそろ最初の説明を変えるか、なくせばいいんじゃないですか?」

スタッフ：「上の方が決めるので、私が決めることではないので…」

そのスタッフは上司に伝えるとは言わず、言葉丁寧に断りされた感じでした。

何気なく守られてきたあたりまえを誰かが破った時、それを非難するのではなく少し立ち止まって考えてみてはどうでしょうか?

今でも日本の社会では、まだまだ色によって男女区別をすることが少なくないです。最近では、ランドセルの色なども多彩になり選択肢も増えていますが、親や祖父母、おとなたちにしみついているジェンダーバイアスが、無意識のうちに子どもたちに大きな影響を与えていることが多々あります。また女性に対する性暴力の背景にあるもの、それは男性優位の社会構造の影響が大きいです。2018年度「世界経済フォーラム」ジェンダー・ギャップ指数は、日本は110位/149か国です。特に経済部門や政治部門での男女格差は顕著です。例えばひとり親世帯のうちでも母子世帯の貧困問題やDV被害を受けても逃げられなかった理由が経済的な不安であるなどがあります。

暴力の根絶をめざすためには、ジェンダー平等の実現は必須であると思います。

多様な性を尊重し、らしさや役割など性別で区別や差別したり決めつけたりするのではなく、誰もが安心して自由に自分らしく生きられる社会、そして暴力のない社会を築いていきたいです。 (ほりちゃん)



＊ローズカーニバルお礼＊

今年も、5月19日（日）に浜寺公園で開催されたローカーニバルに参加しました。
フリーマーケットでの売上金および寄付金を利用して、できるだけ多くの子どもたち
へワークショップを届けます。
フリーマーケットに出品する品物を提供して下さった方々、当日寄付、ご購入してくだ
さった方々、そして一緒に販売してくれた子どもたちにお礼を申し上げます。
2019年の売上金は46,515円でした。ありがとうございました。



CAP プロジェクト活動報告

2019年4月～2019年9月まで

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数	校数	クラス 数	人数		
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	1	3	88	1	2	53	0	0	0	4 (2)	55 (7)
6月	4	8	200	0	0	0	0	0	0	5 (4)	23 (12)
7月	13	27	841	0	0	0	1	2	52	16 (14)	71 (45)
8月	6	12	359	1	1	9	0	0	0	9 (8)	126 (120)
9月	20	56	1809	0	0	0	0	0	0	21 (20)	86 (76)
合計	44	106	3297	2	3	62	1	2	52	55 (48)	361 (260)

大阪マラソンに出場します！！応援してください！！

12月1日（日）に開催予定の大阪マラソンに子どもの権利を大事にするチームとして
『わが町にしなり子育てネット』がエントリーしています。

チーム10人のランナーのうち、5名がえんばわめんと堺/ESのメンバーです。

子ども一人ひとりの生きる力を育むことのできる社会になることを願って参加します。

「ほりたか」さん・「りんママ」さん・「夕子」さん・
「きみちゃん」さん・「ほりひろ」さんが走ります！



完走めざして走ります、沿道からのご声援よろしくお願ひします。

なお、応援メッセージやご寄付も受け付けております。詳しくはこちらをご覧ください。

https://osakam2019.japangiving.jp/supporter/project_display.html?project_id=50000031

講演会を下記のとおり予定しています

その1

SDGs とはなにかーその概要と男女共同参画・子どもの権利との関係

堺市男女共同参画推進講師派遣対象事業

講師：岡島克樹さん（大阪大谷大学人間社会学部 教授）

日時：2020年2月1日（土）13：30～16：00 場所：サンスクエア堺 研修室2

参加費：無料 定員：40名

プロフィール：JICA でカンボジアで行財政改革、地方分権の分析に従事、2004年より大阪大谷大学で教鞭をとりはじめ、現在は自治体審議会の委員のほか、国際子ども権利センター理事 JICA「SDGs を活用できる人材・団体育成事業」運営委員などを務める。

その2

子どもが安心して暮らすために ～虐待・DVをなくすために～

令和元年度地域における男女共同参画推進を支援するためのアドバイザー派遣事業

講師：市場恵子さん（社会心理学講師・心理カウンセラー）

日時：2020年2月9日（日）13：30～16：00

場所：堺市産業振興センター（旧じばしん南大阪） セミナー室2 参加費：無料 定員：45名

プロフィール：岡山理科大学・広島大学・看護専門学校2校で社会心理学・人間関係論・ジェンダー論の非常勤講師を務めるかたわら、岡山市男女共同参画推進センター「さんかく岡山」・広島大学霞キャンパス「ハラズメント相談室」で心理専門相談員に携わる。

その3

子どもの権利条約日本批准25周年とSDGs ～子どもが安心できる社会をめざして～

社会福祉法人堺市社会福祉協議会「ふれあい助成金」交付

講師に平野裕二さんをお招きします（詳細は企画中！）

日時：2020年3月7日（土）13：30～16：00

場所：堺市産業振興センター（旧じばしん南大阪） 会議室1

プロフィール：子どもの人権連代表委員、ARC（Action for the Rights of Children）代表、子どもの権利条約ネットワーク運営委員、子どもの権利条約総合研究所運営委員など。国連・子どもの権利委員会の報告審査を長く傍聴し、子どもの権利をめぐる国際的な動向に詳しい。主著（共著）に『子どもの権利条約のこれから』『新解説 子どもの権利条約』『子どもオンブズパーソン』、主訳書にユニセフ『世界子供白書』（2002年版以降、（財）日本ユニセフ協会との共訳）、『いじめに立ち向かう』『学校犯罪と少年非行』『少年司法における子どもの権利』など。

いずれの講演会もお申込み、お問い合わせはえんばわめんと堺/ESまでお願いします。



えんばわめんと堺/ES の取り組みや講演や研修のお知らせなどをメールでも送らせて頂きます。

メールでの送信をご希望の方は、下記のQRコードにアクセスして、送信してください。ホームページのお問い合わせ画面につながります。その際、お名前・メールアドレスと、件名に（例）「研修など」・内容に（例）「案内希望します」とご記入ください。QRコードが読み取れない方は、empowerment@lily.ocn.ne.jp にメール送信してください。

なお、迷惑メール対策で、ドメインまたはメールアドレスの受信・拒否を設定されている方は「empowerment@lily.ocn.ne.jp」からのメール受信を許可に設定してください。



会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

(初年度のみ入会金 3,000円)

賛助会員 1,000円 (入会金なし)

- ◎ 更新日は年2回 (1月31日・8月31日) です。
- ◎ 会員有効期間は1年です。
- ◎ 郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺
口座番号 00920-9-182116

〒599-8244 堺市中区上之801番5号
特定非営利活動法人えんばわめんと堺/ES
TEL: 072-230-5588 FAX: 072-230-5589
E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp
<http://www.npo-es.org/>

正会員 26名

賛助会員 86名 (99口)

寄附金 50,100円

2019年9月現在

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしく願いいたします。

ホームページも見てね



編集後記

今年の春から、養育里親として中1女兒、小5男児の姉弟との生活が始まっている。子どもの人権をベースに、多くの子どもや子どもに関わる人たちと向き合ってきたが、子ども一人ひとりが生まれてから学ぶもの、身についてくるもの、また身につくべきことが欠けることででてくるものなど、人が育つことって重く深い。子どもの人権って？また原点から学びなおしの日々が続く。(SAME)